

## 暁子 令和8年5月度特別作品

故郷 暁子

私は山口県の山村に生まれました。様々な表情を見せる自然の中に、古き時代の面影を残して佇む小さな集落です。故郷は常に無二のもですが、俳句に親しむようになって以来、その思いは一層強くなりました。彼の地で育ったことが、私の句作の大きな柱となっています。生家を継ぐ者がいて、今も時折、訪ねて散策する機会を持つことが出来るのは文字通り有難いことです。

春筍や深山の土の芳しき

今もなほ使う井戸水山躑躅

つばくらめけふは山家にややの声

水満ちて光の満ちて峡五月

日翳ればどこかがさやぐ青田かな

一村は川に沿うたり合歓の花

バス停は村の三又路カンナ燃ゆ

拾ふ間も落つる音して栗林

ひと雨のありて匂へる刈田道

方々へ猪垣のびて峡の晴

### 《作品鑑賞》

辻純江

繊細な感覚で、良く季節感を捉えて、楽しい句が出来ている事に、心をひかれました。

春筍や深山の土の芳しき

土が芳しいと言う感覚を、素晴らしいと思います。

つばくらめけふは山家にややの声

静かな山里に、赤ん坊の声は生きる希望ですね。

一村は川に沿うたり合歓の花

清らかな川に沿って、静かな山里の風景が目に見えかびます。

バス停は村の三又路カンナ燃ゆ

今は珍しいカンナが、皆が集まるバス停に赤く咲いているのは嬉しいですね。

とても楽しく読ませて頂きました。